

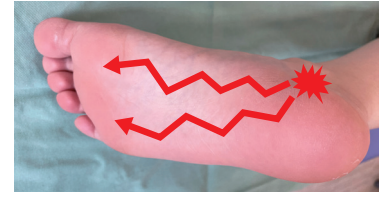
足 根 管 症 候 群



足根管症候群

症状

足関節内側から足底部、足趾にかけての疼痛としびれ感が主訴である。疼痛の表現は、灼熱感、針で刺すような痛み、違和感などと多彩で、約1/3の症例で近位（下腿内側）への放散痛も訴える。足根管部の圧痛や足底に放散するTinel徴候があり、脛骨神経の支配領域である足底部の感覚鈍麻を伴うことがある。



疼痛やしびれの部位

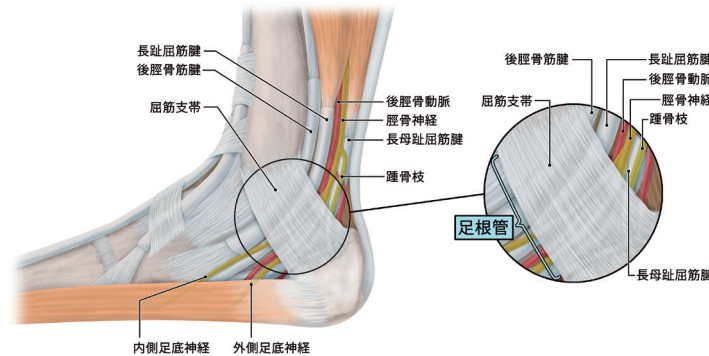
原因病態

原因

足根管を通る脛骨神経やその分枝が何らかの原因で圧迫されることで絞扼性神経障害を生じる。約4/5で原因の特定が可能で、ガングリオンや腫瘍、距踵骨癒合症、静脈瘤などの占拠性病変によるものが多い。扁平足などの足部変形による神経の伸張や、外傷による線維化なども原因となる。

病態

足根管は内果後下方に存在する距骨、踵骨と屈筋支帯から構成される狭いトンネルで、この中を脛骨神経（もしくはその分枝）、後脛骨動静脈と3本の腱と多くの構造物が走行する。よって足根管内に様々な占拠性病変が生じると、比較的容易に神経が圧迫され障害される。また、足根管部には距骨下関節が存在するので、踵部の外がえしに伴い神経が伸張されることも障害の要因になる。



足根管の解剖



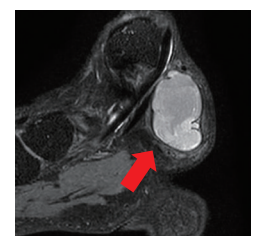
足底の神経支配

診断

診断のポイントは、症状と足根管部の圧痛、神経の伸張時痛である。X線、MRI、CTや超音波などの画像検査は、神経や占拠性病変を可視化することで原因の特定に役立つ。腰椎疾患や糖尿病性神経障害との鑑別を要する。

- 足関節内側から足底部、足趾にかけての疼痛としびれ
- 足根管部の圧痛とTinel徴候
- 脛骨神経の伸張テスト (dorsiflex-eversion test)
足関節・足部を背屈、外返し位で全足趾の中足趾節関節を5~10秒間最大伸展させることで疼痛が誘発される。
- 神経伝導速度の遅延

画像検査などで腰椎疾患が除外され、上記の身体所見を認める場合は、足の外科認定医への紹介を検討する。



ガングリオンのMRI



足根骨癒合症の3DCT